

第 66 回 原子力安全専門委員会定例会の中止
(概要)

令和 3 年 1 月 14 日
福井県原子力安全専門委員会 事務局
(原子力安全対策課)

1月12日に予定していた第66回定例会については、大雪等の影響もあり、中止することとした。

このため、福井県原子力環境安全管理協議会（明日開催予定）に報告予定の「原子力発電所周辺の環境放射能測定結果」、「発電所の運転建設および廃止措置状況」の内容については、オンラインミーティングツール等を用いた打ち合わせにより、委員に確認いただいた。主な概要については、以下の通り。

表. オンライン打ち合わせ

日時	説明方式（場所）	出席者
1月12日10時30分～12時00分	WEB会議	三島委員、山本委員
1月12日13時00分～14時00分	WEB会議	大堀委員
1月12日15時00分～16時00分	WEB会議	西本委員
1月13日9時30分～10時30分	WEB会議	泉委員、
1月13日13時00分～14時00分	対面（福井県庁）	田島委員
1月13日16時00分～17時00分	対面（福井大学）	鞍谷委員長
1月14日10時30分～11時30分	WEB会議	黒崎委員

○説明内容（概要）

- (1) 原子力発電所周辺の環境放射能調査（令和2年度 第2四半期（1月～3月））
- (2) 発電所の運転・建設および廃止措置状況（令和2年10月～令和3年1月）

これらの内容について、明日、原子力環境安全管理協議会の場で配付予定の資料をもとに説明した。また、昨年10月の委員会において「高浜3号機の蒸気発生器伝熱管の損傷」を議題として取り上げ、関西電力より原因と対策について報告を受けた以降、高浜4号機の定期検査でも同様の事例が認められたことから、県のプレス文等をもとに、調査状況の説明を行った。

その他、大飯3号機の加圧器スプレイ配管溶接部の傷については、昨年10月の委員会以降、当該配管の調査が行われており、1月8日に規制庁に対して説明が行われていることから、その内容についても説明を行った。これらに係る委員からの主な質疑、コメントについては、以下の通りである。

<主な質疑>

Q.

高浜4号機の蒸気発生器伝熱管の損傷に関して、スケールの性状を確認しているとのことだが、SG内の高温側と低温側で、その性状に差異はあるのか。

A.

差異はない。説明として、カメラで撮影した写真などを示すことができれば理解しやすいと考えている。事業者に対して、今後、説明資料として用意するよう伝える。

Q.

高経年化技術評価では、スケールに対してどのような評価をしているのか。考慮していたのか。

A.

関西電力が2014年にまとめた高浜3号機および4号機の30年目の高経年化技術評価書の中では、BEC穴の閉塞については考慮しているものの、伝熱管自身のスケール成長、生成についての考慮はない。

保全として、今後、考えていかなければいけない課題であり、県としても、今後の点検方法などについて関西電力の考えを確認していく。

<主なコメント>

- ・ 大飯3号機の加圧器スプレイ配管溶接部ひび割れについて、10月27日の専門委員会委員会資料では、UT結果として、溶接部を貫通している図が示されたが、当初は、溶接部に沿ったき裂が示された図があったと思う。前回の定例会でも申し上げたが、今後、委員会でも確認したい。
- ・ 原因が入熱によるものだとすると、今後の施工やこれまでの他の溶接部との違いが出ず、特異性を説明するのが難しい。考え方を整理する必要がある。
- ・ 入熱が大きかったとしているが、入熱が過少の場合、融合不良がおき、線状の欠陥が残る。
- ・ 強加工の要因が、溶接部の拘束枠のような形でひずみを助長したとは考えられないか。2007年に美浜2号機においてSG入口配管で強加工SCCが発生している。強加工SCCであったことが今回の特異性ではないのか。溶接の前に行われたシンニングによる強加工SCCのシナリオは本当に要因から消すことができるのか改めて確認したい。

これらのコメント等も踏まえ、事務局としては、前回の委員会に引き続き、大飯3号機の加圧器スプレイ配管溶接部の傷について議題として取り上げ、関西電力よりその調査状況の説明を受けるとともに、高浜4号機の蒸気発生器伝熱管の損傷についても議題として取り上げることにした。